基本方針	分野区分	事業名	担当課	実施目的	事業等の概要	経費合計（円）	成果と課題	総合評価	今後の方向性
Ⅲ 健康で明るく豊かな生活を送ることが出来るスポーツ	1. スポーツ活動の普及・振興 「市民ひとり1スポーツ」の定着	スポーツ振興補助事業	スポーツ・生涯学習課	各実施団体への補助等により、大会や事業を実施することで市民へスポーツ活動の場を提供し、市民の健康増進とスポーツ精神の高揚を図ることを目的とする。	全日本大学選抜相撲十和田大会実行委員会・とわだ駒街道マラソン大会実行委員会等の3団体に負担金として支出。 選抜高校相撲十和田大会実行委員会・市体育協会・市地区体育振興会連合会・市中学校体育連盟等の7団体に補助金として支出。	16,840,000	＜平成30年度の課題＞ ●各補助団体が、事業の参加者の増加や競技者の拡大を図ることで、より自立した運営が図られるように努めていく必要がある。 ＜令和元年度の成果と課題＞ ○補助等により大会等の事業が展開され、概ねの事業で前年度より参加者の増加となり、スポーツ振興が図られた。 ●参加者の増加が、団体の収入増加につながらないケースもあるため、補助の内容については、個別に見直しを検討していく必要がある。	A	継続
		市総合体育大会	スポーツ・生涯学習課	「市民ひとり1スポーツ」を目指し、市内全地区・各層住民を対象とした総合体育大会を開催することにより、スポーツ人口の拡大と住民の体力作り・健康づくりを推進する。	【前期競技】6種目 グラウンドゴルフ・サッカー・ソフトボール・バドミントン・ゲートボール・パークゴルフ・ 【後期競技】7種目 ミニバレー・卓球・バレーボール・バスケットボール・ボウリング・インディアカ・ソフトバレーボール	300,274	＜平成30年度の課題＞ ●競技種目の見直しを図り、軽スポーツの普及、PR活動を図る必要がある。 ＜令和元年度の成果と課題＞ ○競技レベルの格差を解消し、競技に参加しやすくなるよう競技規定の見直しを行った。 ●競技種目の見直しを行い、陸上競技の廃止が決定したが、代替種目の採用はなかった。今後も参加地区や参加者の増加に向けて競技種目の見直し等の改善の上、実施していく。	A	継続
		スポーツ少年団	スポーツ・生涯学習課	スポーツ少年団活動を通して、心身ともに健全な青少年の育成を図るとともに、団員個々の資質や技量の向上を図りながら、次代を担う青少年の育成を目指すための諸事業を実施する。	主な事業（参加人数） ・軟式野球十和田地区大会(52人)、新人大会（96人） ・スポーツ少年大会、体力テスト（73人）、十和田市スポーツ少年団総会(45人) ・十和田市スポーツ少年団母集団研修会（35人）	1,630,477	＜平成30年度の課題＞ ●スポーツ少年大会の参加団体は昨年と同様8団体で、今後も各団の協力が必要である。 ＜令和元年度の成果と課題＞ ○母集団研修会(保護者・監督・コーチ向け)の参加者数は昨年の8団体から10団体と増加し、周知に成功した。結果としても好評で、団員(子ども)だけでなく母集団と一体となった少年団活動ができた。	A	継続
		選抜高校相撲十和田大会	スポーツ・生涯学習課	全国から高校相撲の選手を招き、夏のイベントとして定着したこの大会を通して相撲の街十和田市を全国にPRするとともに、青少年の健全育成及び市の活性化を図る。	全国から選抜された高校40校（うち青森県からは3校）の選手約190人が参加して開催され、夏の恒例イベントとして、多くの市民が観戦に訪れている。 ※令和元年度より従前の“選抜高校相撲十和田大会”から“全国高校相撲十和田大会”に大会名称は変更。	4,639,467	＜平成30年度の課題＞ ●上屋根を撤去した影響で、ゲリラ豪雨により土俵溜りが水浸しとなり、閉会式が中止となった。今後は、排水対策を考慮しなければならない。 ●上屋根を撤去したことで、入場者数が天候の影響を受けやすくなった。入場者数も減少傾向にある。 ＜令和元年度の成果と課題＞ ○天気に恵まれたこともあり、前年度を上回る多くの相撲ファンが来場した。前年度の課題となった排水対策について、使用はしなかったが、電動ポンプを増台して準備しておくなど大会進行には支障を来さないような対応策は検討し、非常時に備えた。 ●令和3年度は、新設の屋内グラウンドでの大会を予定しているため、会場設営等について、十分な検討の上、実施する必要がある。	A	継続

基本方針	分野区分	事業名	担当課	実施目的	事業等の概要	経費合計(円)	成果と課題	総合評価	今後の方向性
Ⅲ 健康で明るく豊かな生活を送ることが出来るスポーツ	1. スポーツ活動の普及・振興 「市民ひとり1スポーツ」の定着	全日本大学選抜相撲十和田大会	スポーツ・生涯学習課	全国から大学相撲の優秀選手を招いて、夏のイベントとして定着したこの大会を通して相撲の街十和田市を全国にPRするとともに、青少年の健全育成及び市の活性化を図る。	十和田市夏祭りの行事として定着している本大会に、全日本学生相撲連盟から選抜された12大学及び個人戦のみ参加の1校を加えた全13大学約100名の選手が、母校の名誉と自身の栄誉のために熱戦を展開し、約1,000人の観客を魅了した。	4,130,822	＜平成30年度の課題＞ ●入場者数が年々減少傾向にある。要因とし観衆の高齢化が考えられる。今後、若年層へのPR活動等を行い入場者の増加を図る必要がある。 ●事業継続のため、引き続き主管する青森県相撲連盟上十三支部と連携して収入の増を図る必要がある。 ＜令和元年度の成果と課題＞ ○入場者数は、前年度を上回り、大きな問題もなく大会運営、進行することができた。 ●入場者数は前年度より増えたが、事業の繰越額は減少しており、入場料や協賛金による収入の増や経費の削減を図っていく必要がある。	A	継続
		とわだ駒街道マラソン大会	スポーツ・生涯学習課	マラソンを通して、「市民ひとり1スポーツ」の普及振興と健康増進・参加者相互の親睦を深める。また、官庁街通り(通称「駒街道」)を広く紹介し、市の活性化を図る。	秋のスポーツ行事として定着しており、市民、市外・県外のマラソン・ジョギング愛好者が日本の道百選に選ばれた「駒街道」をメインコースとした本大会を通して、参加者の生涯スポーツの普及・振興を目的としている。	3,952,190	＜平成30年度の課題＞ ●大会中止等の不測の事態が発生した場合の対応方針が確立されていなかった点から、連絡体制の整備、事前案内を行う必要がある。 ＜令和元年度の成果と課題＞ ○2大会連続の中止となったが、前年度の課題等もふまえ、早急な中止連絡、参加賞送付などの対応を図り、大きな問題は生じなかった。 ●陸上競技場をスタート、ゴールとしており、ランナーの安全確保等を図るため、大会運営スタッフの確保、スタート時間の設定などの課題があり、コースや種目など根本的な大会の実施内容等について、改善の上、実施していく。	A	継続
		スポーツいきいき健康づくり事業	スポーツ・生涯学習課	「市民ひとり1スポーツ」を掲げ、スポーツ振興のため市民が気軽に楽しめる軽スポーツ教室や大会を開催することにより、各地区での定着を目指し、市民の健康増進と競技者同士の親睦を図る。	【教室・講演】 室内クップ教室 計6回 【大会】 室内ペタンク大会 1回 ミニバレー大会 中止 【巡回教室】 ペタンク教室 1回 市民に軽スポーツの発展・普及を図るために各イベントを実施した。	111,413	≪平成30年度の課題≫ ●9月のペタンク教室の参加者は少なかったため、多くの方が参加するよう開催日時や周知方法を工夫する必要がある。 ≪令和元年度の成果と課題≫ ○教室の種目をクップに変更し、新たな軽スポーツの普及を図ることが出来た。 ○ポスター掲示や参加の声掛け等積極的に行い、教室の参加者総数は昨年度よりも増加した。 ●巡回教室の実施回数が少なかったため、多くの団体・地区から、依頼が来るよう地区等の団体への声掛けや広報等をさらに活用するなど周知の仕方を工夫していきたい。	A	継続
		市民屋内大運動会	スポーツ・生涯学習課	「市民ひとり1スポーツ」を目指し、全地域、各層の住民を対象とした市民屋内大運動会を開催することにより、スポーツ人口の拡大と住民の体力づくり、健康づくりを推進することを目的とする。	玉入れ、大縄跳び、綱引きなどの団体競技6種目とシャトルラン(持久走)、ワンバウンド玉入れなどの個人競技5種目を行い、参加者数は9地区、470人であった。団体種目については市内地区対抗形式で行い、個人種目については地区に関係なく誰でも参加できるように開催している。	105,931	＜平成30年度の課題＞ ●14地区のうち、参加は9地区と全地区ではないことから、今後も参加地区が増えるよう、地区体育振興会との連携を図っていく必要がある。 ＜令和元年度の成果と課題＞ ○参加地区の増減はなく、入場者数は、前年度をやや下回ったが、多数の市民が参加し、スポーツに親しみ、交流を図ることができた。 ●参加地区の増加とはならなかったため、今後も引き続き参加地区の増加に向け、実施種目等、内容を改善の上、実施していく。	B	改善

基本方針	分野区分	事業名	担当課	実施目的	事業等の概要	経費合計（円）	成果と課題	総合評価	今後の方向性
Ⅲ　健康で明るく豊かな生活を送ることが出来るスポーツ	1．スポーツ活動の普及・振興 「市民ひとり1スポーツ」の定着	学校体育施設開放事業	スポーツ・生涯学習課	一般市民が各種のスポーツ活動を実践できる場所を確保するため、学校体育施設を開放し、スポーツ活動の普及とグループの育成に努め社会体育の振興を図る事を目的とする。	今年度は、市内小学校13校、中学校6校、併置校1校で体育館と校庭を含め延べ4,051」回、合計60,784名の利用があった。利用種目については、バスケット・バドミントン・卓球など各地域にあった種目で実施されていた。 その他、地域文化活動や伝統芸能など地域の交流活動としても夜間の体育館などが有効利用されていた。	0	＜平成30年度の課題＞ ●10人以下での利用もあることから、今後も効率的な利用を呼び掛け、2団体が同じ曜日に利用するなど対策を各校運営委員会で図るよう促す必要がある。 ＜令和元年度の成果と課題＞ 〇スポーツ少年団、地区のスポーツ団体等の活動場所及び活動機会の確保が図られ、継続的なスポーツ活動、スポーツ振興に寄与している。 〇地域住民がスポーツ活動に利用するほか、よさこいなど地域の文化等の活動などにも利用され、地域の交流活動が図られている。 ●10人以下での利用もあることから、今後も効率的な利用を呼び掛け、2団体が同じ曜日に利用するなど対策を各校運営委員会で図るよう引き続き促す必要がある。	A	継続
		学校プール開放事業	スポーツ・生涯学習課	児童・生徒及び幼児の安全な水遊び場所の確保、並びに市民の夏季スポーツの機会と場所を提供するため、学校プールを開放し、夏季スポーツの振興を図ることを目的とする。	市内小学校4校にて開放。（実施回数は各校概ね30回程度） 開放中事故等に対応するため救急講習会を開催し、事故防止に努めた。	954,310	＜平成30年度の課題＞ ●監視員は地区住民等であることから、開放期間中の事故防止及び万が一の事故対応が徹底されるように努めていく必要である。 ＜令和元年度の成果と課題＞ 〇開放期間中は監視員の配置により、学校プール内での大きな事故も無く無事開放期間を終了することができた。 〇機械器具の取扱い講習を行い、プール薬品の引渡しを行うなどのほか、監視員の救命講習修了等の義務づけ、監視員心得の配布等、事故対策に重点をおいて実施されている。	A	継続
		体育、スポーツ賞に関する表彰	スポーツ・生涯学習課	十和田市民（就学のため市外に居住している者を含む。）並びに市に所在する団体で体育、スポーツの振興に功績のあった者及びスポーツ活動において優秀な成績を収めた者を顕彰することを目的とする。	この表彰は永年に渡り社会体育の振興、選手の養成および各種目スポーツ団体の育成指導等に寄与した指導者や、県大会以上の大会において各競技で優秀な成績を収めた一般、大学生、高校生に贈られる賞で、市内の競技団体、大学、高校へ該当者、該当団体の推薦を依頼し、推薦された方々及び競技団体について市スポーツ推進審議会に意見を求め、教育委員会が受賞者を決定する。	1,120,897	＜平成30年度の課題＞ ●参加者数又は参加団体が大幅に少ないものもあり、選考審査が難しいものもある。 ＜令和元年度の成果と課題＞ 〇審議会で意見聴取し、次年度より適用とすることで、大会の表彰の基準について、見直しが図られた。 ●各競技団体の協会や学校等を通じ、候補者を推薦していただいているが、推薦漏れや推薦団体のない競技者もいるようであるため、一般に向けて表彰推薦についての周知も必要と考えられる。	A	継続
	2．スポーツ指導体制の整備充実	スポーツ指導者の育成・確保	スポーツ・生涯学習課	スポーツ活動において、適切な指導・助言のできる指導者の育成・確保に努めるとともに、市民同士が交流しながら気軽にスポーツに楽しむことができる環境づくりを推進する。	スポーツ教室を通じて、地域におけるスポーツ活動のリーダーとして活躍できる人材を育成する。 生涯スポーツ推進員を委嘱し、各地区のスポーツ活動の実施及び各種大会等スポーツ活動への参加を図る。 スポーツ少年団の育成者の研修参加費を助成し、青少年のスポーツ指導者の育成を図る。 。	0	＜平成30年度の課題＞ ●地域における軽スポーツの実施や指導をできるリーダーを育成するため、スポーツ推進委員の増員を図るほか、生涯スポーツ推進員や地区体育振興会、一般の研修、講習参加者を増やすように図る必要がある。 ＜令和元年度の成果と課題＞ 〇研修、講習の実施及び参加を促進し、指導者の育成が図られた。 ●令和元年度で任期満了でもあり、新規のスポーツ推進委員の掘り起こしを図ったが、新規1名に対し、辞退者が2名あり、減少となった。引き続き、スポーツ推進委員の増員を図っていく必要がある。	A	継続

基本方針	分野区分	事業名	担当課	実施目的	事業等の概要	経費合計(円)	成果と課題	総合評価	今後の方向性
Ⅲ 健康で明るく豊かな生活を送ることが出来るスポーツ	2. スポーツ指導体制の整備充実	十和田市スポーツ推進委員協議会	スポーツ・生涯学習課	委員相互の連携を図るとともに、市民のスポーツ活動の普及促進に寄与することを目的とする。	市民へスポーツの理解を深め、生涯スポーツ・軽スポーツの普及推進に努めるとともに、指導助言及びスポーツ活動を促進する。 いきいき健康づくり事業、各種大会・講習会への運営協力並びに講師として指導にあたった。(いきいき健康づくり事業：指導回数7回／延べ152人)	439,377	＜平成30年度の課題＞ ●定員に対し、推進委員が少なく、教室や大会等で指導、協力できる委員の増加を図る必要がある。 ＜令和元年度の成果と課題＞ ○市民への軽スポーツ(室内ペタンク)の普及や各種市主催スポーツイベントなどの運営に大きく貢献している。委員が各種研修会等にも積極的に参加し、知識の習得に尽力している。また、令和元年度十和田市開催の上十三フェスティバルと研修会は成功裏に収めることができた。 ●特に経験年数の浅いスポーツ推進委員へ研修会等への参加を働きかけ、スポーツ推進委員の質の向上を図る必要がある。	A	継続
	3. 体育施設の管理運営、整備の充実	体育施設の管理運営、整備	スポーツ・生涯学習課	指定管理者導入による利用者サービスの向上及び効率的、効果的な施設の管理運営、並びに施設の修繕、備品購入・更新等により施設機能の維持、長寿命化及び安全安心な利用に資することを目的とする。	体育施設等について、指定管理者が基本協定、年度協定、関係法令・例規、業務基準書等に従って管理業務を行った。(十和田市体育協会、十和田市サッカー協会、十和田湖ふるさと活性化公社) 施設の修繕、備品購入・更新等行い、施設の計画的整備、充実に努めた。	0	＜平成30年度の課題＞ ●老朽化等により修繕や備品・設備等更新の必要性が増えてきており、経費も大きいため、今後も計画的に整備していく必要がある。緊急的な修繕を要する案件も増えている。 ＜令和元年度の成果と課題＞ ○故障等に対し、緊急性が高いものについては、財政協議により、施設の運営に支障がでないように早急な修繕対応を図ったほか、耐用年数等をふまえ、老朽化したものについては、計画的な修繕の実施のため、予算要求等の対応を図った。 ●修繕や備品・設備等更新の必要性が多く、国民スポーツ大会の競技開催も予定されていることから、中長期的な改修計画、施設の個別の計画等の検討が必要である。	A	継続